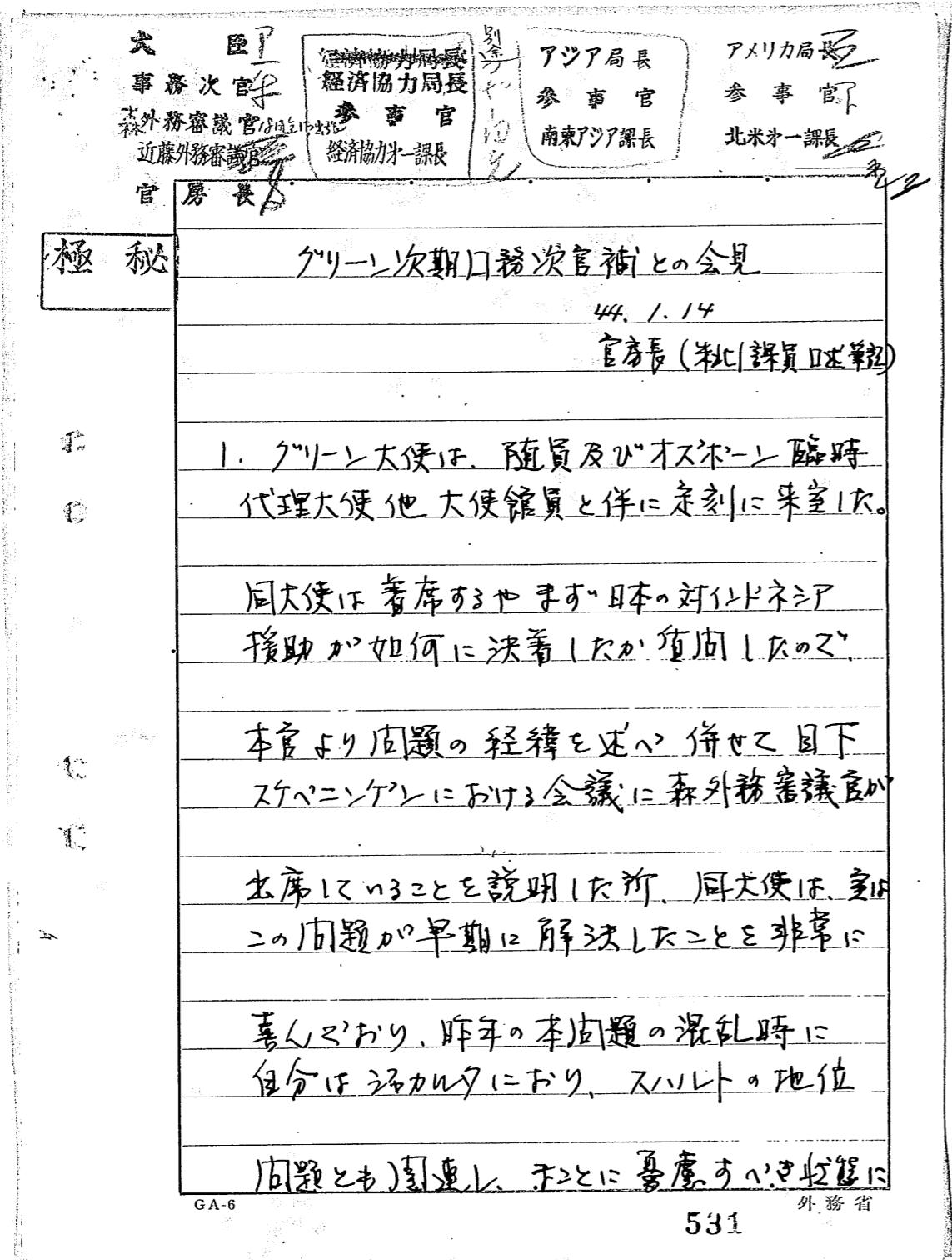


琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還） 47

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43847

昭和四年四月一日
会談(日田)
グリーン会館
長房昌



あ、次にこれを想起する。ほんといたという
感じでありますと述べた。

2. 本官より、豊大使からワシントンで日本
問題の責任者と接觸にて日本政府は
どこまでは心強い決算であるか、同時に
日本政府においても、総理大臣、外務大臣から
一体となり、また外務省においても、
牛場次官、森審議官、東郷局長及び下田
駐米大使のラインが確立して、この問題に当たる
ことはなっておらず、また御承知の方には、田中
大使が一種の roving ambassador とい
ワシントンに派遣され下田大使を補佐する
ことになった。田中大使は勿論交渉の
ラインには入りながら、下田大使の要請で

GA-6

新妻の相手に日本の立場を説明するときに
アドと説明しておいた。

3. クリーン大使は再びインドネシア問題に
戻り、本官の意向に反して

(1) スハルトは最近特に物の判断が聰明
になりました。側近については、スニヨー、

ムロホ。が勢力があるようと思われるが、その他
にスナルン一が有力だと思う。自分の経験

では、スハルトが決心しかねていた問題を
スナルン一は斡旋を図んだが、翌日解決した

例がある。この側近も何についても
有力という印象があり、問題の性質によるところ

ようである。

(2) ~~スニヨン~~は世間的に人気はなく、自分の

後輩が大統領になつた事情もあり強引
な気持ちがないように思われる。

(3) インドネシアの経済情勢は、物価も落着き
安定したように思うが、セリマの事情もあり米は

今年も足りないのではないか。~~最も~~、彼の地
の経済事情は、石油壳り上げ代金か

入りたり、その時の事情によって動くので
つかつか捉え難いが、IMFの干渉入りで

安定の方向に向かうことは疑いない。

大臣	アシア局長	アメリカ局長
事務次官	参事官	参事官
森外務審議官	南東アジア課長	北米第一課長
近藤外務審議官		
官房長	会議記録	
極秘	(会議記録)	
3-1	グリーン次期外務次官補との会見	
	44.1.14 官房長(北川謙吉正筆)	
<p>1. グリーン大使は、随員及びオスボーン臨時代理大使他大使館員と共に定刻に来室した。</p> <p>同大使は着席するやまづ日本に対するネシア援助が如何に決着したか質問したので、</p> <p>本官より問題の経緯を述べ併せて日下ステペニンゲンにおける会議に森外務審議官が出席したことと説明した所、同大使は、室内での問題が早期に解決したことと非常に喜んでおり、昨年の本問題の混乱時に併合は深刻化にあり、スハリトの地位問題とも関連し、そこには憂慮すべき状況に</p>		
G A 6	外務省	
	53/118	

あたこども想起され、1月と1月といふ感じであると述べた。

2 本官より、豊大使がワントンで日本問題の責任者と1月3日にて日本政府にてまことに心強い次第であるとか、同時に日本政府においても、経理大臣、外務大臣から一休となり、また外務省においても、牛場次官、森審議官、東郷局長及び下田駐米大使のラインが確立して、この問題に当たることはなつこなし、また御承知の方には田中大使が一種の roving ambassador としてワントンに派遣され下田大使を補佐することになつた。田中大使は勿論交渉のラインに入らなかつたが、下田大使の要請で

折衷の相手に日本の立場を説明することと
アドバイスを説明していく。

3. クリーと大隈は再びウドネシアの問題に
戻り、本官の直面に対して

(1) スハリートは最近特に物の判断が堅明
に変わってきた。側近については、スニヨー、

ムトウ、カウカルが有力かと思うが、この他
にスナレンヤーが有力だと思う。自分の経験

では、スハリートが決意しかねていた問題を
スナレンヤーに斡旋を頼んだ所、翌日解決した

様である。これら側紅色も何についても
有力という印象でなく、問題の性質にはこれど

ようである。

(2) ブスチオントは世間的に人気はなく、自分より

後輩が大統領になつた事情もあり残り
合う気持ちはないように思われる。

(3) ウドネシアの経済情勢は、物価も落着き
安定したほうに思うが、セルマク事情もあり米は

今年も足りないのではないか。最も彼の地
の経済事情は、石油壳り上げ代金か?

入り次第、その時の事情によて動くので
つかつか捉え難いが IMF のテコ入れ?

予定の方針に何をいふことは疑ひづらい。

外 交 省	事務次官 森外務審議官 近藤外務審議官 官房長官 種種	経済協力局長 本官 経済協力課長	アジア局長 参事官 南東アジア課長	アメリカ局長 参事官 北米オーストラリア課長
クリーク期問題 と会見				
44.1.14				
官房長官(半山評議官在席)				
1. クリーク大使は、随員及びオストロー臨時代理大使他大使館員と共に午前11時に来室した。				
同大使は如何に決着したか、直向にどうぞ。				
本官より問題の経緯を述べ併せて日下ステベニンゲンにおける会議に森外務審議官が出席したことと説明いたず、同大使は室にこの問題が早期に解決したことと非常に喜んでおり、昨年の本問題の混乱時に自分(下)シカゲル(=ドリ)スハルトの地位問題とお困り、そこには憂慮する所はない。				

GA-6

533

外務省

あ、たことを想起する。アーティストという感じであると述べた。

2. 本官より、豊大使がワシントンで日本問題の責任者として日本政府にて日本政府に立てども、経理大臣、外務大臣から一矢といつて、下田外務省において、半山評議官、森審議官、東郷局長及び下田駐米大使のライシが確立して、この問題にあたることになつた。下田御承知のうえに田中大使が一種の *roving ambassador* としてワシントンに派遣され、下田大使を補佐することになる。田中大使は勿論交渉のライシに入らなかつた。下田大使の要請ぐ

GA-6

外務省

所要の相手に日本の立場を説明するときに
どうと説明していくか。

3. クリント大使は再びペトロニア問題を
庆り、本官へ向けて述べて

(1) スハリートは最近特に物の判断が堅明
になりました。側近についてもスジョン、

ムロト。が努力があるうえ思われますが、この他
にスナレンードが有力だと思う。自分の経験

では、スハリートが決心しかねていた問題を
スナレンード幹部を頼んで前回解決した

例がある。二つ側近も何については
有力というくてなくして問題の程度は違うこと

である。

(2) スキオントは世間的に人気はなく、自分より

後輩が大統領はTFの事情もあり強引
な気持ちがないほうに思われる。

(3) 仁トネシアの経済情勢は、物価も落着き
安定したようと思つか、ヒルマの事情もあり米は

今年も足りないのでは?といふ。最も注目地
の経済事情は、石油売り上げ代金から

入るTFとの貿易の事情はTFで動くので
つかつか、採え難いのがIMFのテコ入れで

予定の方向に向かうことは疑ひない。